

第4章 農業農村における整備計画

第1節 施策の体系

施策の体系を示します。

将来像	基本方針	施策の方向		施策
人・自然が共生する豊かな資源を生かした共働のむらづくり	[自然環境]	優れた自然環境の保全	優れた自然環境の保全 希少な動植物の保全	- 自然景観の保全 - 土地利用などによる保全 - 絶滅危惧種などの保護・保全
	美しい自然と共生する	身近な自然の保全と創出	里地里山の保全と再生 環境に配慮した農業の推進 自然とのふれあいの場の創出	- 農地、河川、溜池や水路の水環境保全 - 水源や取水量の確保・循環型利用の推進 - 身近な生物の保全、樹林地など生息地の環境保全 - 環境に配慮した営農の推進 - 環境に配慮した農業農村事業整備の推進 - 水辺とのふれあいの場や機会の創出 - 森と緑のふれあいの場や機会の創出
	[生産環境]	農業の持続的発展と多面的機能の発揮	担い手の育成と人材の確保 農地の有効利用の推進と環境に配慮した整備 自然循環機能の維持推進	- 新規就農者、後継者の確保・支援 - 認定農業者の育成、農業法人化 - 生産基盤整備の推進 - 優良農地の保全 - 遊休農地の解消 - 環境保全型農業の推進
	活力と交流に満ちた農業農村を創る	農村の振興	地域資源保全管理の推進 農村経済の活性化 都市と農村の共生対流の促進	- 農地水環境保全向上対策の推進 - 食の安全確保 - 地産地消の促進、ブランド化 - 農業体験交流拠点の充実 - 直販所の充実
	[生活環境]	居住環境の改善	生活環境の保全 安全で快適な集落の創造	- 環境美化対策(ゴミ、花いっぱい) - 生活環境の改善 - 生活排水対策 - 生活道路の整備 - 災害に強い集落づくり
	住みやすいむらを創る	美しいむらづくり	田園景観資源の保全 田園景観の形成	- 地域の景観保全 - 美化対策 - 集落景観の向上 - 歴史的景観の整備 - 農地景観の創出
	[実現に向けて]	農村環境について理解する	情報公開 環境教育 食育の推進	- 農村環境計画の公開 - 地域の環境学習 - 食育の推進、農業への理解
	みんなで共働のむらを創る	農村環境を守る	参加のしくみ 組織づくり	- 活動支援としくみづくり - 地域住民との連携

■土地利用の基本方針は、将来像と上記の各基本方針を実現する合理的かつ効率的な土地利用を図ります。

第2節 施策の基本目標

1. 美しい自然と共生する

(1)優れた自然環境の保全

①優れた自然環境の保全

本市は、川内川を中心とした河川、市の3割を占める森林及び1割を越える農地があり、これらの自然地は生き物の生育生息地となっています。また、蘭牟田池や長目の浜など優れた自然が農村と隣接しています。「薩摩川内市環境基本計画」に基づき自然との調和や共生という視点から多様な生物の生育・生息の場としての水と緑の自然環境を保全します。

また、土地利用のゾーニングにより、事業の際には、優れた自然環境や自然景観の保全に努めます。



蘭牟田池



長目の浜

②希少な動植物の保全

鹿児島県レッドデータブックによるとベッコウトンボなどの絶滅危惧Ⅱ類以上の動物は54種、植物は149種が本市に生息しています。

事業の際には希少動植物の保全に努めます。



ベッコウトンボ



鹿の子ゆり

(2)身近な自然の保全と創出

①里地里山の保全と再生

住民意向調査によると、本市は「野鳥・昆虫類が多い」と言われており、身近な生き物の生息・生育環境が農地や集落の周囲にあります。スギ・ヒノキ植林や点在する2次林があり、農地と樹林を行き来している動物や植物の生息・生育地となっています。特に、里山や社寺林などの身近な樹林地の保全に努めます。

また、市民意向調査では、「河川や水路、ため池の水のきれいさ」については不満という意見が多く、動植物の生息・生育環境に問題があります。今後、ため池や水路の水質を改善し、生き物が住みやすい護岸や魚道の整備を検討することにより、水辺の多様な動植物の保全に努めます。



小比良池と樹林



山田川

②環境に配慮した農業の推進

営農活動により、河川、水路及びため池における水質悪化や生き物への影響が予想されます。そのため、減農薬や減化学肥料による環境保全型農業を推進します。

また、生産基盤整備においても可能な限り、環境の影響が小さくなるように努めます。



▲ 環境保全型農業の例

③自然とのふれあいの場の創出

住民意向調査結果では、水のきれいさが求められています。以前に比べ、ホタル、メダカ、ドジョウなどの魚類が減少傾向にありますが、地域においては、依然見られるとの意見もあり、ため池や水路でホタルなどが多い場所は、ビオトープなど生育の場の整備に努めます。

また、緑については、集落周辺に樹林地が存在し、野鳥や昆虫の生息・生育地となっています。特に社寺林は地域の緑とのふれあいの場となっています。

今後は、森と緑のふれあいの場や機会の創出に努めます。



清浦ダム公園

2. 活力と交流に満ちた農業農村を創る

(1)農業の持続的発展と多面的機能の発揮

①担い手の育成と人材の確保

農業就業人口は、平成12年の5,623人から平成17年の4,574人に高齢化などにより大きく減少しています。

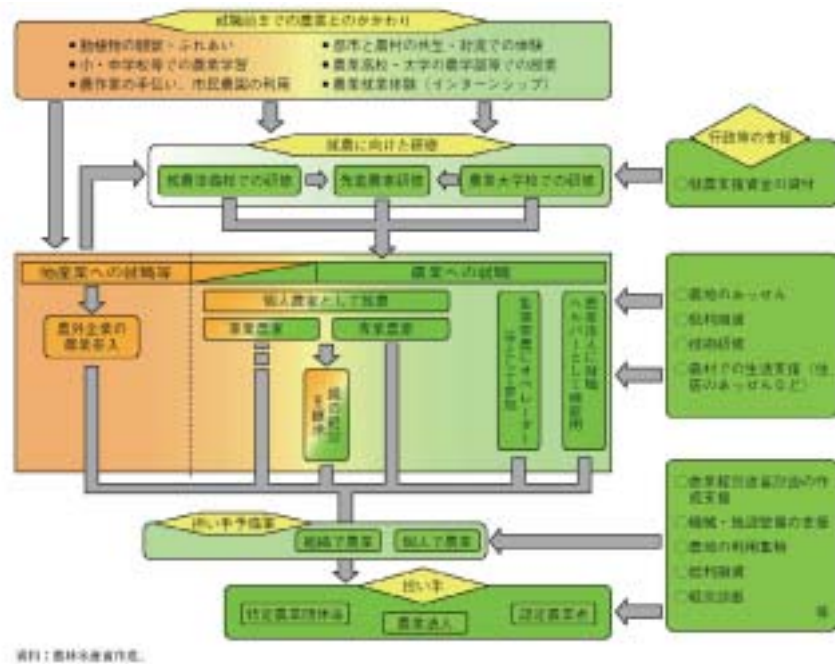
また、農業就業者の8割が60歳以上の高齢者で占められております。

農村環境を維持する上で担い手は必要です。農家のアンケートにおいても後継者がいないところが61%になり、農業における根本的な問題となっています。

今後は、後継者の育成とともに就農意欲向上策を「農業振興基本計画」及び農業公社の研修事業により推進していきます。

新規就農者の確保としては、農業法人化、定年帰農、UJIターン、大学生などの農業インターンシップ制度を検討、推進します。

また、地域農業のリーダーとなる認定農業者の育成、拡大を行っています。



▲ 担い手ができるまでの流れ

②農地の有効利用の推進と環境に配慮した整備

本市の農地は、平地から山間部、島嶼部など多様で、ほ場整備率は、水田・畑とも8割近く整備されていますが、経営耕地の20%が耕作放棄地となっているのも現状です。

「農業振興基本計画」による新たな作物体系に応じた土地利用や生産基盤整備が必要となってきます。また、耕作放棄地は山間や島嶼部などの過疎地の他、都市周辺にも目立ちます。地区の条件やニーズに応じて林地化、都市交流拠点、景観創出、ビオトープ、公園及び基盤整備による優良農地化など耕作放棄地の解消策について検討していきます。

「農業振興地域整備計画」により、優良農地を今後とも保全します。市民意向として生産基盤の中では、農道整備、水路整備、生活排水と用水の分離の希望が多いため、地域全体として、効率的な営農ができるように生産基盤の改良に努めます。

生き物に配慮した整備として「外来種の放流禁止とメダカやトンボの保全」を望む意見が多くあります。

将来、ほ場整備やため池、水路の整備を行う際には、自然環境、生態系に配慮します。



山田の優良農地



休耕田のコスモス

③自然循環機能の維持増進

市民意向調査において、今後の農業のあり方として「減農薬、堆肥利用」、環境保全型農業の取り組みとして「農薬・化学肥料の適正利用」の希望が多くなっています。

「薩摩川内市環境保全型農業推進方針」に従い、エコファーマーを中心とした農薬・化学肥料の適正な使用，農業用プラスチックやマルチなどの農業用廃棄物適正処理，土づくりを目指した家畜排泄物の適正処理を行い，農業に備わっている本来の自然循環機能の維持増進により，環境保全型農業を推進します。

また，農業から発生する資源としては，家畜排泄物の他，稲ワラ，葉，茎があり，リサイクル可能なものについては，回収，加工，販売，再利用できる体制を整えます。

バイオマスはメタンなどのエネルギー利用や堆肥として製品利用があります。今後はバイオマスなどの新エネルギーについて検討を進めることとします。

主な農作業	河川・湖沼・地下水・海域	大気・温暖化・オゾン層	土壌・生態系
施肥	○過剰な施肥による水質汚濁・富栄養化	○肥料成分由来の温室効果ガス（一酸化二窒素）の発生	○品質が不良な肥料の使用による重金属の蓄積のおそれ ○化学肥料への依存による土壌の劣化
防除	○不適切な農薬使用による水質への影響のおそれ	○土壌消毒用臭化メチルによるオゾン層の破壊	○不適切な農薬使用による周辺自然生態系への影響のおそれ
かんがい	○水田代かき期の濁水流出等による水質汚濁・富栄養化		
加温施設・農業機械等		○化石燃料の使用による温室効果ガス（二酸化炭素）の発生	○農業機械作業による土壌の鎮圧
プラスチック資材等		○野焼き等による有害物質の発生	○不適切な埋立等による生態系のかく乱
畜舎飼養	○畜舎からの排水、家畜排せつ物の不適切な処理等による水質汚濁・富栄養化	○悪臭等 ○反すう動物の消化管内発酵による温室効果ガス（メタン）の発生	
は場管理	○土壌粒子の流出等による水質汚濁・富栄養化	○水田土壌等からの温室効果ガス（メタン）の発生	

資料：農林水産省作成。

▲ 農業生産活動別の主な環境へのリスク

(2)農村の振興

①地域資源保全管理の推進

農地や農業用水などの資源はこれまで集落などの地域の共同活用により，保全管理されてきました。これらの資源は，農業のほか，農村の豊かな自然環境や景観を形づくる上で大きな役割を持っています。しかし，高齢化や混住化が進み，これまでどおり，維持管理することが困難になっています。

そこで，「農地・水・環境保全向上対策」などの交付金事業を活用し，自治会，NPO，学校，JA，地域住民，農家の参加により，多様な地域資源を保全します。

また，「営農活動への支援」も活用することにより，環境負荷低減の取り組みとともに，化学肥料，化学合成農薬を5割以上低減する先進的取り組みとして，地域の協力を得て行います。

農村の魅力向上についての住民の意向は，「安全な食料生産のアピール」の希望が多く出ています。本市は各種事業を活用し，安心安全な食料の供給に努めます。



▲ 農地・水・環境保全向上対策の概要

②農村経済の活性化

住民意向から「安全な食料のアピール」の意見があり、生産者の顔が見える農産物の供給を目指す必要があります。本市は、従来の地区での地産地消を推進するとともに、本市全体では、農村地域と都市部が共存する特性を生かし、市内で生産したものを市内で消費する「地産地消」を積極的に推進します。この他、農業への理解や協力を求めるため、援農などの市民ボランティア活動、直販所の充実、学校給食への地元食材の利用、郷土料理の伝承や消費者と農業の交流を推進します。

また、産地間競争に対応するため、高収益作物の導入や地域特産物の掘り起こしなど、消費者ニーズに対応して生産・流通体制を整え、特に、野菜、果物における重点品目などの産地強化を図り、新しいブランド化を目指すため、「農業振興基本計画」を基に生産基盤づくりを行います。



ハウスきんかん



イチゴ



▲ 地産地消活動における多様な主体による連携のイメージ（学校給食の場合）

③都市と農村の共生対流の促進

本市には、きやんせふるさと館、入来きんかんの里ふれあい館、道の駅榎脇遊湯館、東郷ふれあい館、ロード51など多くの交流拠点があります。

市民アンケートによれば、「農村地域と都市部の交流」、「直販所の充実」などへの不満がみられます。今後、市民のニーズなどを把握し、直販所の機能の充実に努めます。

また、本市には、農村周辺に優れた自然景観資源などが分布しており、「観光振興基本構想」と有機的に連携し、農業面での体験学習、グリーンツーリズム、市民農園の整備、食と農と祭の情報発信を行って、一般消費者や市民及び農家の交流を進めていきます。



道の駅榎脇遊湯館



榎脇遊湯館の内部



棚田活用の矢立農村公園



柳山アグリランド

3. 住みやすいむらを創る

(1) 居住環境の改善

① 生活環境の保全

水質、大気の保全については、環境基準により守られていますが、住民意向調査によると、水のきれいさ、空気のきれいさについては個人差が大きいところです。

「薩摩川内市環境基本計画」に基づき、ゴミの不法投棄やポイ捨て、生活排水の改善などの生活環境についても、農業農村での役割を担い、農村環境を守ります。

② 安全で快適な集落の創造

本市の生活排水処理率は、40%で増加傾向にありますが、住民意向調査によると、生活排水施設の整備が多く希望されています。このほか、生活道路の整備、集会所の充実が求められています。

今後も引き続き生活排水対策・生活道路の整備に努めます。また、道路、水路、農地などの維持・管理、改修を適切に行い、災害に強い集落づくりに努めます。

(2) 美しいむらづくり

① 田園景観資源の保全

本市には先人の努力のより創られた、内之尾や山之口・前向の棚田など誇れる農村景観が多くあります。

住民意向調査によると、公園では寺山公園、海岸では長目の浜、川内川と池では藺牟田池と田海川、観光シンボルではナポレオン岩、動物ではホタル、眺望は西方人形岩、歴史的な景観は手打の武家屋敷通りが自慢したい景観となっています。

また、住民意向調査からみた、「農村景観」の満足度は高く、今後も田園景観の保全に努めます。本市が持つ、優れた自然的景観資源の他に、農業が創り出した農地、集落、里山、水辺、樹林などの景観があります。これらの農村景観の維持によって、自然景観が守られている場合が多く、土地利用の面から「農業振興地域整備計画」における農用地区域指定による農地の保全及び、「景観農業振興地域整備計画」策定による先進的な農村景観保全施策を進めます。さらには、地域全体の景観を阻害する耕作放棄地やゴミのポイ捨て・不法投棄などの解消に努めます。



内之尾の棚田



寄田の棚田(山之口・前向)



柳山アグリランド



寺山公園



長目の浜



蘭牟田池



ナポレオン岩



ホタル



丸山と田園風景



東郷五色親水公園の魚道



西方人形岩



手打の武家屋敷通り

②田園景観の形成

農村には田の神、石積の農業用水路（疎水）などの農業に関する遺構や史跡が多くあります。農業にまつわる郷土芸能もあります。これらを有機的に結び、美しく調和のとれた農村景観を演出します。そのため、「美の里プラン21」（平成15年農林水産省）に沿って、農道の並木植栽、単調な農地ではランドマークづくりについて、地域で検討し、美しい集落づくりを進めます。



藺牟田地区の疎水



田の神



矢立農村公園の紅葉



新大橋

4. みんなで共働のむらを創る

(1) 農村環境について理解する

① 情報公開

今後も美しい田園風景や豊かな自然を守り続けるためには、行政や農業従事者、住民が協力し、基本目標の実現へ向けて、環境との調和に配慮した農業や農村づくりを積極的に取り組むことが不可欠です。そのためには、行政だけでなく、農業従事者や住民の意識改革を図っていく必要があります。本市の農業や農村環境に関する情報をシンポジウム、インターネットや広報を通じて広く市民に公開することにより、市民の環境に対する意識を高めていきます。

② 環境教育

近年、家庭や地域における教育力の低下などを背景にして、子ども達の自然体験・生活体験の不足が懸念されており、農村及び都市の子ども達に豊かで多彩な体験活動の機会を与えることが求められています。

農村の見学や、小学校近くの田畑などにおいて、子ども達が動植物を対象とし、生命を育む営みである農業（農作業）を体験することは、絶好の自然体験の機会となります。

今後もこれらを推進すると共に都市と農村の交流の一環として、ハード、ソフト面で拡充していきます。



田植え



稲刈り

③ 食育の推進

本市で収穫した安心で安全な農産物を使用した学校給食や、料理教室などの体験授業を通して、食料や農業について考え、ふれあう機会をつくります。



地元産の食材を使用した料理体験



地元産の食材を使用した子供たちの料理体験

(2) 農村環境を守る

① 参加のしくみ

環境にやさしい人づくりを目指し、地域の協力を得て、自然体験や農業体験を行うグループを拡充し、地域の環境保全活動や、農作業の手伝い、収穫祭を開催・参加する仕組みを整えていきます。



新田神社の御田植祭

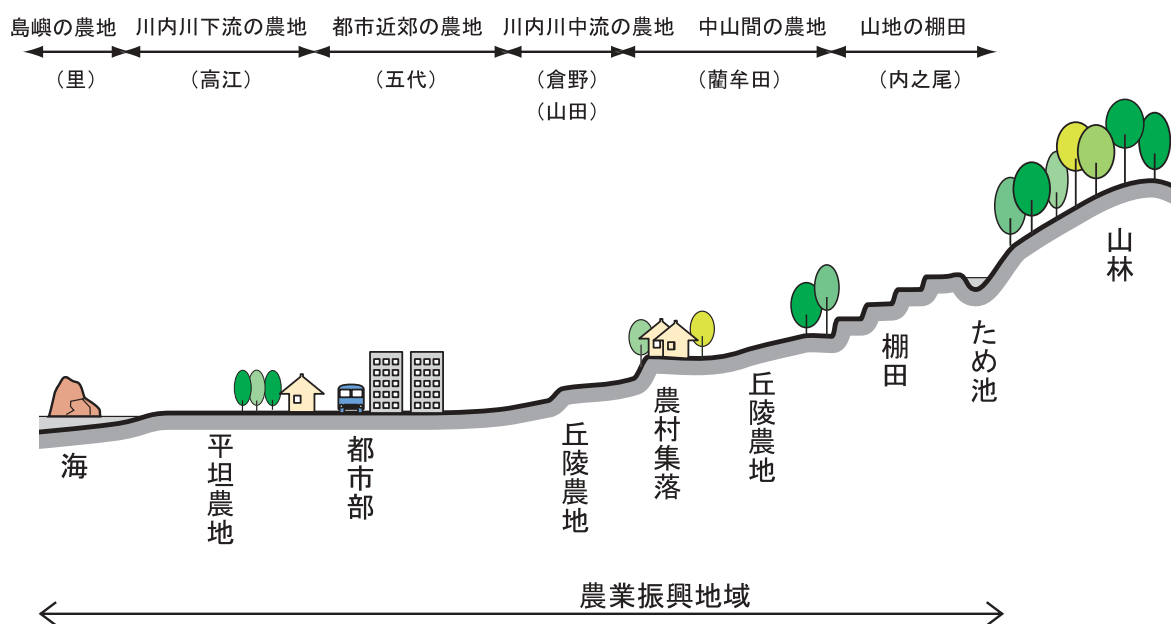
② 組織づくり

これまで環境保全に対し、重要な役割を担う農業、農村の多面的機能に関して、地域住民の十分な理解が得られていませんでした。また、農村地域においては、農業従事者数の減少や担い手の高齢化により、農業施設や農地の維持管理に問題が出てきています。今後、地域の自然環境を保全するために、農業従事者と地域住民が相互理解を深めながら、豊かな農村環境の維持管理に共働で取り組むことができる組織づくりを推進します。

第3節 タイプ別整備方針

1. ゾーニングの考え方

本市は広大な面積と多様な環境を持っています。旧市町村毎に山間部、平地などを持つところもあり、一律のゾーンの線を引くことが困難です。そのため、複数のタイプの環境ゾーンを設け、その中の代表的な地点をモデルとして抽出し、環境配慮モデルとして整備の方針を示しました。



▲ ゾーニングイメージ図（一般図）

2. タイプ別整備の基本方針

(1) 山地の棚田：内之尾地区

（現状）山間部にあり、急峻な斜面にある棚田です。周囲は森林が隣接し、小さな集落があります。溪流の水は清らかで動植物の生息地となっています。

（方針）棚田や溪流などの優れた農村景観と、里山生態系の保全を行います。景観を活用した都市との交流を行うことにより、棚田を維持します。

(2) 中山間の農地：蘭牟田地区

（現状）標高の高い山に囲まれた丘陵地や盆地にある農地で、樹林地、湧水やため池や小河川など様々な地形を形成しています。

（方針）多様な里山の生態系と恵まれた農村景観の保全を行います。また、里山を中心とした生態回廊の創造や集落環境の改善を行います。

(3)川内川中流の農地:倉野, 山田地区

(現状) 川内川支流の上流域に開けた水田地帯で緑の多い集落がまとまっています。農地はほ場整備されており、優良農地となって多様な農産物が栽培されています。集落内道路は、急勾配で狭いところがみられます。また、歴史的な資源もみられます。

(方針) 優良農地を保全し、活力ある農業を展開します。集落内の生活環境を改善し、ゆとりとうるおいのあるむらづくりを行います。生活排水対策を行い、水路や河川の水質保全に努めます。河川や樹林地と水田間の生物の移動経路を確保します。多様な農作物の恵を生かし、地産地消を進めます。

(4)都市近郊の農地:五代地区

(現状) 都市部に隣接する農地で、幹線道路沿いに住宅地がまとまっています。樹林地も少なく、農地の宅地化が進行しています。集落は混住化しており、無秩序な土地利用も見られます。

(方針) 都市的土地利用と農業的土地利用の共存を図り、都市近郊農業に合った、生産基盤の改善に努め、生活排水の農業用水路の流入を防止し、水生生物の生息空間を確保するとともに、緑とのふれあいの場を創出します。

(5)川内川下流の農地:高江地区

(現状) 川内川下流の扇状地や干拓地に比較的まとまった水田や集落があります。下流地域に生息する野鳥や魚類がみられます。

(方針) 平坦地ではありますが、休耕田が点在しており、農地の有効な活用により、高生産性を目指します。また、希少な鳥類などの生息環境の保全に努めるとともに、水田と水路の連絡を確保し、生物の移動を可能にします。

(6)島嶼の農地:里地区

(現状) 自然が豊かな地域であり、平坦地の小規模な水田地帯と丘陵地の段畑で構成されています。農地の周囲には広葉樹林や自然林も分布しています。耕作放棄された農地も多くみられますが、野鳥や昆虫が最も多い地区となっています。海岸景観や歴史的景観にも優れています。

(方針) これまで守られてきた生態系の保全と玉石積などの集落景観の保全に努め、優れた自然を生かし、海洋ゾーンにおける都市との交流を推進し、農村地域の活性化や生活環境の改善を目指します。

3. ゾーン別特性と基本方針一覧表

ゾーン別の地区の特性、タイプ別方針及び目標などを一覧表に示します。

第4章 農業農村における整備計画

表 38 ゾーン別特性と基本方針

ゾーン	地区名	概 況	景 観（特徴）	生 態 系
山地の棚田	内之尾	山間部にあり、急峻な斜面にある棚田です。周囲は森林が隣接し、小さな集落があります。溪流の水は清らかで動植物の生息地となっています。	・棚田百選に選ばれた優れた棚田景観 ・主な構成要素：棚田と広葉樹林と針葉樹林 ・美しい溪流景観	良好な水辺環境が維持されており、植物相が豊かです。
				トノサマガエル、ドジョウ (05) コウベモグラ、ニホンイノシシ、ニホンシカ、シマヘビ、ツチガエル、ヌマガエル、カワムツ、タカハヤ、サワガニ、カワニナなど ツクシショウジョウバカマ (26) トウゲシバ、ホラシノブ、ミゾシダ、ノキシノブ、サンショウソウ、ヒメウス、ウマノアシガタ、カキドオシ、ゲンゲ、カスミササ、ハハコグサ、オオジシバリ、タネツケバナ、セリなど
中山間	蘭牟田	標高の高い山に囲まれた丘陵地や盆地にある農地で、樹林地、湧水やため池や小河川など様々な地形を形成しています。	・遠見ヶ城を背景とした典型的な里山の景観 ・湧水量が豊富である ・整備された生垣 ・子宝や五穀豊穡を祈る田の神祭り ・蘭牟田池疎水を水源とする灌漑水路	ほ場整備され、開けた水田地帯であり、一般的な生物種が確認されました。
				アカハライモリ、ドジョウ、マルタニシ (07) コウベモグラ、ニホンイノシシ、シマヘビ、ツチガエル、ヌマガエル、タカハヤ、ドンコ、トウヨシノボリ、ミナミテナガエビ、マルタニシ、カワニナなど ナギ、ユズリハ、ジャノヒゲ (1/) ミノフスマ、ゲンゲ、スズメノテッポウ、ツクシスズメノカタビラ、ノビルなど
川内川中流	倉野	川内川支流の上流域に開けた水田地帯で緑の多い集落がまっています。農地はほ場整備されており、優良農地となって多様な農産物が栽培されています。集落内道路は、急勾配で狭いところがあります。また、歴史的な資源もみられます。	・水田、畑地、イチゴハウス、農村集落、後背の樹林地、河川堤防による中流域の景観 ・ゲンジボタルが乱舞する ・磨崖仏や神社などの歴史的な景観 ・豊作祈願の倉野奴踊りとお田植え祭	ほ場整備された水田と畑地帯であり、一般的な生物種が確認されました。
				トノサマガエル、ドジョウ、モノアラガイ、マシジミ (13) コウベモグラ、テン、シマヘビ、ニホンアカガエル、ヌマガエル、カワムツ、トウヨシノボリ、ミナミテナガエビ、サカマキガイ、カワニナなど ヤナギモ (11) ヨモギ、チガヤ、ツクシスズメノカタビラ、オオカナダモなど
	山田	区画整理された生産性の高い農地、緑の多い集落、スギ・ヒノキ植林	・休耕田を利用したクリスマスライトアップや鬼火焚き ・水神様や田の神	ほ場整備された水田地帯であり、一般的な生物種が確認されました。
				アカハライモリ、ヤマトシマドジョウ (10) コウベモグラ、タヌキ、ニホンイノシシ、ヌマガエル、ニホンアマガエル、カワムツ、コイ、ドンコ、トウヨシノボリ、テナガエビ、モクズガニ、サカマキガイ、カワニナなど ジャノヒゲ、ムツオレグサ (12) スイバ、ゲンゲ、カラスノエンドウ、スズメノテッポウ、オオバコ、ハハコグサ、スズメノヤリ、メダケなど
都市近郊	五代	都市部に隣接する農地で、幹線道路沿いに住宅地がまっています。樹林地も少なく、農地の宅地化が進行しています。集落は混住化しており、無秩序な土地利用も見られます。	・川内川下流の平地水田と自然堤防及び河岸段丘跡の農地 ・樹林地と水田及び住宅地 ・田の神 ・耕作放棄地	耕作放棄地が多く、セイタカアワダチソウなどの植物が確認されました。
				メダカ、イシマキガイ (05) コウベモグラ、タヌキ、ツチガエル、ヌマガエル、ニホンアマガエル、イセゴイ、オイカワ、ミゾレヌマエビ、クロベンケイガニ、サカマキガイなど なし (8) ギンギン、セイタカアワダチソウ、チガヤなど
川内川下流	高江	川内川下流の扇状地や干拓地に比較的まとまった水田や集落があります。下流域に生息する野鳥や魚類がみられます。	・広葉樹二次林とスギ植林を背後に持った平地水田地区の典型的な景観 ・緑の多い住宅地 ・地元産の石材を用いた石垣 ・田の神 ・先人が開拓した高江新田	マツモ、セリをはじめ、水田周辺で見られる動植物が多く確認されました。
				アカハライモリ、ヤリタナゴ、ドジョウ、ヤマトシマドジョウ、メダカ、モノアラガイ、マシジミ (21) コウベモグラ、タヌキ、テン、ニホンイノシシ、シマヘビ、ツチガエル、ヌマガエル、カワムツ、カマツカ、トウヨシノボリ、ミナミテナガエビ、ミゾレヌマエビ、カワニナなど（カラフトワシ、コウノトリ飛来） マツモ、ヤナギモ、ジャノヒゲ (14) ゲンゲ、スズメノテッポウ、ツクシスズメノカタビラ、キツネノボタン、セリ、ホトケノザ、タカサブロウなど
島嶼	里	自然が豊かな地域であり、平坦地の小規模な水田地帯と丘陵地の段畑で構成されています。農地の周囲には広葉樹林や自然林も分布しています。耕作放棄された農地も多くみられますが、野鳥や昆虫が最も多い地区となっています。海岸景観や歴史的景観にも優れています。	・山地と海岸に挟まれた緩傾斜地を利用した棚田、棚畑及び集落 ・地区の気候に配慮がなされた伝統的な平屋と玉石垣の集落景観	ヘゴなどの植物も見られ、島特有の植生と海岸に近い河川に生息する水生生物が確認されました。
				アカハライモリ、トノサマガエル、ドジョウ、メダカ、マルタニシ、イシマキガイ、マシジミ (10) コウベモグラ、イタチ、ニホンヒキガエル、カダヤシ、ミゾレヌマエビ、ミナミテナガエビ、モクズガニ、オオヒライソガニ、サカマキガイ、カワニナなど テイカカズラ (11) ノミノフスマ、タネツケバナ、スズメノテッポウ、ツクシスズメノカタビラ、ハマヒサカキ、カラムシ、ツルソバ、サキシマフヨウ、ハチジョウススキ、ヘゴなど

住民意向（●は地域アンケート）	基本方針	目 標
(入来) ・動物の生活の場が守られている ・河川、水路への水はきれいではない ・公園が充実している ・下水処理が不満 М+ 3 п ц „ Δ е ●環境保全は協力している ●キンカンを広めたい ●八重の寄岩や内之尾棚田の保全、遊歩道整備	棚田や渓流などの優れた農村景観と、里山生態系の保全を行います。景観を活用した都市との交流を行うことにより、棚田を維持します。	「棚田や渓流などの優れた農村景観と里山生態系の保全」 ・棚田や集落などの農村景観の保全 ・水路や里山を軸とした生態回廊の保全 ・景観を活用した都市との交流
(祁答院) ・鳥や昆虫が多い ・動物の生活の場が守られている ・直販所が充実している М+ 3 п ц „ Δ е ●湧水源の保全、ドジョウなどの生息環境の保全 ●ホタルを守りたい	多様な里山の生態系と恵まれた農村景観の保全を行います。また、里山を中心とした生態回廊の創造や集落環境の改善を行います。	「恵まれた農業の維持による里山の生態系保全と農村景観の保全」 ・蘭牟田池の自然と農村景観の保全 ・先人が切り開いた疎水（灌漑施設）の活用 ・里山をつなぐエコロジカルコリドー（生態回廊）の創造
(樋脇) ・農村風景が美しい ・河川水路の水はきれいではない ・水辺とふれあえる場所が少ない М Е Л Т й ξ π ●田園風景の維持、生活排水流入対策 ●地産地消	優良農地を保全し、活力ある農業を展開します。集落内の生活環境を改善し、ゆとりとうるおいのあるむらづくりを行います。生活排水対策を行い、水路や河川の水質保全に努めます。河川や樹林地と水田間の生物の移動経路を確保します。多様な農作物の恵を生かし、地産地消を進めます。	「歴史的資源を活用した農村景観形成と整備済農地の生産性向上」 ・磨崖仏や農村集落などの保全 ・生産性の高い水田での稲、ハウスなどを活用した高収益作物の生産維持 ・水生生物の生息環境やアカガエル類の産卵環境の保全
(東郷) ・公園が充実している ・都市との交流が不満 М Е Л Т й ξ π, В ü з, Л, ц Д ω и ●ホタルの保全、農道の整備 ●フルーツの観光地化、農道や水路の整備、集落排水の整備		「ほ場整備された優良農地の活用と農村の魅力向上」 ・優良農地の高度利用と耕作放棄地の活用 ・田の神、鬼火焚きライトアップなどの農村集落の魅力向上 ・アカガエル類や水生生物の移動性確保
(川内北) ・農村風景が不満 ・河川、水路の水がきれいではない ・水辺とふれあえる場所が少ない М к ł ħ ↓ ε, „ W я б - ↓ κ л ●川内川景観の保全	都市的土地利用と農業的土地利用の共存を図り、都市近郊農業に合った、生産基盤の改善に努め、生活排水の農業用水路の流入を防止し、水生生物の生息空間を確保するとともに、緑とのふれあいの場を創出します。	「宅地と未整備農地の共存と効率的な用排水施設の整備」 ・自然堤防周辺の宅地と低平地に開けた農地の共存 ・用排水施設の整備や塩害対策による生産性の向上 ・市街地周辺での生き物とのふれあい
(高江) ・鳥、昆虫が多い ・動物の生活の場が守られている ・文化財が保存されている ・農道や生活道路が不満 ・農地の整備が不満 ・直販所が充実している М Е Л Т й ξ π, , п Є К Ш + ц Д ω и, Д л ・水辺の生物が多い ・公園が充実している ・祭や行事が盛んである ・下水処理が不満 ・生物に配慮した整備が進んでいない	平坦地ですが、休耕田が点在しており、農地の有効な活用により、高生産性を目指します。また、希少な鳥類などの生息環境の保全に努め、また、水田と水路の連絡を確保し、生物の移動を可能にします。	「鳥類などの干拓地の生息環境とほ場整備による農業との調和」 ・環境に配慮した水路、農道、面整備の実施 ・カラフトワシやカモ類の越冬を可能とする生息環境と餌生物の確保
(里) ・農村風景が不満 ・土地利用に不満 ・農地の整備が不満 ・耕作放棄地が活用されていない М 3 ц „ Δ е, Л, К 3 ●遊休農地解消、棚田の復元と観光農園化 ●用排水路の改良、自然を守っていききたい	これまで守られてきた生態系の保全と玉石積などの集落景観の保全に努め、優れた自然を生かし、海洋ゾーンにおける都市との交流を推進し、農村地域の活性化や生活環境の改善を目指します。	「伝統的な農村集落と緩傾斜地に築かれた農地の保全」 ・平屋と玉石垣による農村集落の保全と活用 ・農地の維持と多様な生物の保全 ・遊休農地の活用による海洋ゾーンにおける農村振興